

関係各位

令和8年3月30日

北海道バドミントン協会
理事長 下 野 和 義

全道大会における高校生審判の導入について

早春の候、関係者の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、これまで高校生に関わる全道大会の開催にあたり、開催地区協会のご尽力により、円滑な大会運営が行われてきました。

しかしながら、近年、審判員の確保に苦慮している状況にあり、また、その補助を担う高校生についても、学校数の減少や部活動の加入率の低下等の理由により、特定の学校の生徒への負担が避けられない現状にあります。

つきましては、今後も持続可能な大会運営となるよう、大会開催にあたり、次のような運営を考えておりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

1 対象大会

- ①国民スポーツ大会北海道予選会
- ②インターハイ北海道予選会〔高体連全道大会〕
- ③北海道選手権
- ④全国選抜南北北海道予選会

2 実施方法

団体戦、個人戦共に原則として敗者審判制とする。

ただし、それぞれ次のとおりとする。

審 判 員	学校対抗団体戦	個人対抗個人戦
主 審 ※ 1	敗者校の監督・コーチ・顧問	敗者校の監督・コーチ・顧問もしくは敗者校の選手 ※ 2
線 審 ※ 3	敗者校の選手 ※ 4	敗者の選手 ※ 4
得 点 係	主管地区協会	主管地区協会

★各競技日の実施方法については、次のとおりとする。

- ※ 1 ①タイムテーブル1段目～主管地区協会。
②1～3回戦（準々決勝を除く）～上記の表のとおり。
③準々決勝～決勝、3位決定戦～主管地区協会。
- ※ 2 個人戦における、高校生主審（主管地区協会の高校生と敗者校の選手）は、2回戦までとする。
ただし、審判資格準3級取得者に限る。
- ※ 3 ①タイムテーブル1段目～主管地区協会。
②1～3回戦（準々決勝を除く）～上記の表のとおり。
③準々決勝～決勝、3位決定戦～主管地区協会。
- ※ 4 団体戦の場合、並行試合により人数が不足した場合は、主管地区協会で担当する。
個人戦の場合、ダブルスは2名、シングルスは1名。
シングルスの場合のもう1名の線審は、主管地区協会が担当する。

3 実施年度

令和8年度から実施する。

以上